

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人

報恩積善会

令和 7 年度 事業報告書

1. 事業成績関係

社会福祉法人 報恩積善会

(1) 入退所状況

(R8.3.31 現在)

区分	男性	女性	計	備考
前年度繰員	27	39	66	
令和 7 年度措置入所	9	0	9	本年度取扱増人員
令和 7 年度契約入所	1	0	1	本年度取扱増人員
計	37	39	76	本年度取扱人員
令和 7 年度退所 (死亡)	11	6	17	本年度取扱減人員
令和 7 年度末現在	26	33	59	次年度繰人員
令和 7 年度入所取扱人員		76 名		
令和 7 年度入所延人員		21,810 名		

(2) 創立以来の入退所状況

区分	入所人員
男性	631
女性	716
計	1,347

(3) 実施機関調べ

委託機関	男性	女性	計
岡山市	16	24	40
倉敷市	0	1	1
総社市	2	0	2
浅口市	0	1	1
新見市	1	4	5
高梁市	0	1	1
津山市	1	0	1
美咲市	2	1	3
奈義町	0	1	1
鏡野町	1	0	1
赤磐市	1	0	1
真庭市	1	0	1
庄原市 (広島)	1	0	1

計	26	33	59
---	----	----	----

(4) 利用者の入所前状況

前住所区分	男性	女性	計	割合
居宅から入所	12	16	28	47.5%
病院から入所	7	10	17	28.8%
他施設から入所	7	7	14	23.7%
その他	0	0	0	0%
計	26	33	59	100%

(5) 年齢構成

	64才 以下	65才 ～69 才	70才 ～74 才	75才 ～79 才	80才 ～84 才	85才 ～89 才	90才 ～94 才	95才 ～99 才	100才 以上	計
男	1	1	1	11	5	5	2	0	0	26
女	0	2	3	6	8	5	7	2	0	33
計	1	3	4	17	13	10	9	2	0	59
最高年齢	男性 92 才 女性 96 才									
平均年齢	男性 80 才 女性 83 才 男女平均 82 才									

(6) 在所期間

	20年以上	10年以上	5年以上	1年～ 5年未満	計
男	0	4	8	14	26
女	2	8	12	11	33
計	2	12	20	25	59
平均在所機関				11 年 11 か月	

(7) 月額負担状況

階層	金額	男	女	計
1	0	5	2	7
2	1,000			
3	1,800	1		1
4	3,400	1		1
5	4,700		1	1
6	5,800	2	1	3
7	7,500		1	1
8	9,100		3	3
9	10,800			
10	12,500			
11	14,100			
12	15,800		1	1
13	17,500		1	1
14	19,100			
15	20,800			
16	22,500		1	1
17	24,100	1		1
18	25,800		2	2
19	27,500			
20	30,800	1		1
21	34100	2	1	3

階層	金額	男	女	計
22	37,500	1	1	2
23	39,800	1		1
24	41,800	2	4	6
25	43,800			
26	45,800	1		1
27	47,800	2	1	3
28	49,800	1	3	4
29	51,800		1	1
30	54,400	1	2	3
31	57,100		2	2
32	59,800	1	1	2
33	62,400	1		1
34	65,100			
35	69,100	1	1	2
36	73,100			
37	77,100		1	1
38	81,100		1	1
39	下記参照	1	1	2
	96,500			
	121,000			
	計	26	33	59

39 階層（年額収入 1,500,001 円以上）の人は、 $(150 \text{ 万円超過額} \times 0.9 \div 12 \text{ 月}) + 81,100 \text{ 円}$

※ 備考 上表にかかわらず、140,000 円を当該徴収月額とする。

2. 地域福祉関係

(1) 老人短期入所事業

種類	利用者数	延日数	委託機関	利用料（一泊）
ショートステイ	(男) 0名	(男) 0日	岡山市 (定員1名)	生活保 3,760円
	(女) 0名	(女) 0日		その他 2,030円
短期入所自主事業	(男) 5名	(男) 28日	自主事業	入所対象 2,200円
	(女) 1名	(女) 2日		上記以外 5,000円
計	6名	30日		

(2) ショートステイ利用状況

年 月	利用者数	延日数
R7年4月	0	0
5月	0	0
6月	1	2
7月	1	3
8月	0	0
9月	0	0
10月	0	0

年 月	利用者数	延日数
11月	0	0
12月	0	0
R8年1月	2	5
2月	3	20
3月	0	0
計	7	30

(3) 配食・会食サービス実施状況

種類	実施形態	利用者数
配食サービス	毎週月・水・金曜日の昼食	9名
会食サービス	毎日・毎食可	4名

(4) 施設の貸与

笹が瀬町内会、つしまみんな食堂、津島地区社会福祉協議会（車の貸出）

3. 処遇関係

(1) 主な年間行事実施状況

令和7年4月	ひな祭り・お花見・お花見ドライブ
5月	
6月	大掃除・地域交流会
7月	蓮見学・摩利支天祭り
8月	七夕祭り・盂蘭盆・ほうせき夏祭り
9月	敬老の日・創立記念日

10 月	運動会・秋の検診
11 月	積善会祭
12 月	クリスマス会・忘年会・餅つき・すす払い
令和 8 年 1 月	新年会・初釜
2 月	節分会
3 月	彼岸会・健康診断

(2) 月間行事実施状況

誕生会は昼食時に各階分かれて実施し、職員と入所者が一緒にお祝いを行った。また午後の時間からは食堂に集まりカラオケ大会を行い毎回 30 名程度の入所者が参加された。

売店、移動図書、常会等については計画どおり行った。

喫茶については、週 3 日地域ボランティアの協力により実施し毎回 15 名程の方が参加されボランティアの方との交流も図りながら喫茶を楽しみに利用されている。

消防訓練 2 回、災害時避難訓練を 1 回実施。地域での連携も検討しながら入所者の安全を図るよう訓練を実施した。また地域の自主防災訓練にも職員が参加し交流を図った。その他 BCP 訓練を兼ねて、職員の安否確認訓練・机上訓練等も適宜実施、備蓄食料品の見直し等非常時の体制整備を行った。

(3) クラブ活動実施状況

種別	参加者数	回数	種別	参加者数	回数
生け花クラブ	12 名	週 1	カラオケクラブ	22 名	月 2
茶道クラブ	3 名	月 1	手芸クラブ	10 名	月 2
押し花クラブ	10 名	月 1	習字クラブ	7 名	月 1
水彩画クラブ	5 名	月 1	園芸クラブ	4 名	隔週
ギタークラブ	3 名	月 1	ほうせき同好会	7 名	月 2
メダカクラブ	3 名	月 1	マイクラフト	2 名	週 2
ハンドベルクラブ	4 名	月 1			

カラオケクラブ、ほうせき同好会、マイクラフトは地域住民が主体で開催する等楽しみや地域交流の場となっている。

施設外活動実施状況

お花見、ハス見学、紅葉見学、イルミネーション見学、初詣はドライブを兼ねて複数回に分けて実施し入所者の方に好評であった。

(4) 入所者の健康管理

定期検診：血液検査（9 月）、インフルエンザ予防接種（11 月）、定期健診：胸部レントゲ

ン・心電図・血液検査・内科検診（3月）

4. 実習受け入れ状況

- ①介護等体験 13名（岡山大学、就実大学、岡山商科大学等）
- ②明誠学院高等学校 6名
- ③インターンシップ 3名（商科大学1名、就実大学2名）
- ④ノートルダム清心女子大学 4名
- ⑤ビジネスカレッジ介護福祉学科 1名

5. 職員の処遇

（1）施設外研修

月	出張先	参加者	出張内容
5月	岡山市 岡山市	施設長 施設長	岡山県老施協 第1回理事会 岡山県老施協 養護老人ホーム部会施設長会
6月	岡山市 岡山市	施設長 施設長・事務・介護	岡山県老施協 第1回総会 岡山県老人福祉施設研究大会
8月	岡山市 岡山市	栄養士 介護職員	岡山県特定給食施設関係者研修会 介護福祉士実習指導者研修
9月	岡山市 岡山市 岡山市 岡山市 広島市 岡山市	事務長 介護職員 施設長・事務長 施設長 施設長・介護・栄養士 看護・介護職員	高齢者活躍支援セミナー 介護福祉士実習指導者研修 岡山県経営協セミナー セキュリティ対策の新常識 中国地区老人福祉施設研修大会 POO マスター養成研修会
10月	オンライン 岡山市 岡山市	事務長 事務長 看護・介護職員	カスタマーハラスメント対策セミナー 公正採用選考人権啓発推進員研修 POO マスター養成研修会
11月	オンライン 真庭市 オンライン 岡山市	看護職員 施設長 栄養士 施設長	高齢者施設における感染対策指導のツボ 養護老人ホーム部会 施設長研修会 介護施設における食事提供の柔軟性と効率性 福祉職員キャリアパス対応生涯研修管理職員
12月	山口市	事務長	全国老人福祉施設研修大会・研究会議
1月	岡山市 オンライン 岡山市	施設長 事務長 施設長	岡山 DWAT チーム員連絡会 リスクマネジメントセミナー チームで取り組む認知症介護実践研修会
2月	岡山市	看護・介護職員	POO マスター養成研修会

	岡山市 オンライン	事務長 栄養士	公正採用選考人権啓発推進員研修会 岡山市ブロック養護老人ホーム栄養部門会議
3月	岡山市 オンライン 岡山市 岡山市 倉敷/総社	事務長・生活相談員 事務長 施設長・生活相談員 施設長 施設長	社会福祉法人の地域における 公益的な取組推進に関する情報交換会 養護老人ホームブロック代表者会議 集団指導 老人福祉施設協議会 岡山市ブロック総会 岡山県老人福祉施設協議会 施設見学会

(2) 施設内研修

実施回数	研修名	対象者
毎日	朝礼と職種別ミーティング	出勤職員
毎月1回	常会	職員・入所者
年1回(2月)	事業計画検討会議	役職者及び部署リーダー
年1回(3月)	事業計画発表会議	職員
年2回(6・9月)	防火避難訓練	職員・入所者
年2回(12・2月)	災害時避難訓練(BCP含) (職員研修・職員会議)	職員・入所者
5月	高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止	職員
7月	事故発生又は再発防止	〃
9月	身体拘束排除の為の取り組み	〃
11月	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止	〃
1月	緊急時の対応に関する研修	〃
毎月	法定研修(オンライン)	常勤及び非常勤職員
毎月1回	個別ケア研修・会議 (講師来会・ZOOM)	該当職員

(3) 職員健康管理

全職員年1回の定期健康診断、夜間勤務のある介護職員は年2回行った。調理職員には毎月1回の検便とノロウィルス対策の検便を実施した。11月にはインフルエンザワクチンの接種を行った。

(4) 広報活動・情報公開

入所者、家族および後援会会員を対象として、広報誌「ほうせき」を年1回発行するとともに、「HOUSEKI NEWS LETTER」を通じて地域向けの情報発信を行った。あわせて、ホームページにおいて事業活動の予定や実施報告、財務諸表の公開などを行い、積極的な情報開示に

努めた。また、SNS を活用し、日常の活動や入所者・職員の取り組みを発信するとともに、京山公民館へのチラシ設置や施設紹介など地域に向けた広報活動を実施した。

入所者が製作したエコバッグについては、当会の情報に加え、設置協力先のホームページや SNS へアクセス可能な QR コードを貼付し、コンビニエンスストア、薬局、公民館等で配布することで、広報ツールとしても活用した。

苦情解決体制として第三者委員会を設置しているが、当該年度において第三者委員会を開催する事案はなかった。なお、入所者や職員から寄せられる日常的な相談や意見については、その都度丁寧に傾聴し、速やかな対応と改善につなげるよう取り組んだ。

（５）福利厚生

職員親睦会助成、独立行政法人福祉医療機構、岡山県民間社会福祉従事者共済制度・育成制度、福利厚生センター、岡山市勤労者サポートプラザへの加入を継続し職員全体の福利厚生の充実を図った。介護福祉士や喀痰吸引研修・POO マスター等の資格取得、外部研修への参加者に対して勤務調整や参加費用の助成を行った。

（６）栄養管理

栄養基準量を定め、献立は入所者の希望を取り入れた。また、嗜好調査や日々の残菜調査を実施、味付け、盛り付けを工夫し旬の食材を積極的に取り入れ季節感のある食事を提供した。

お元気な方には好みに合わせて食事がとれるようカフェテリア方式で食事をとっていただき、また食堂や各階フロアを装飾し明るく楽しく食事ができるように工夫している。

（７）地域における公益的な活動

地域との連携強化および公益的な取り組みを目的として、毎月第４金曜日に地域交流・認知症啓発の場である「ほほえみカフェ（認知症カフェ）」を開催した。ボランティアの協力のもと、毎回おおむね 14 名程度の地域住民が参加し、認知症に関する正しい理解の促進とともに、多職種による講座の実施を通じて、地域住民同士および専門職との交流の場として継続的に機能している。

地域住民および入所者の社会参加と生きがいを目的とした「マイクラフト」活動については、地域住民を中心に週 2 回の活動を継続して実施した。製作した作品は、小学校や子ども食堂等を通じて地域の子育て家庭へ提供し、世代間交流の促進および地域に開かれた居場所づくりとして、公益性の高い取り組みとなっている。

環境配慮および入所者の社会参加を目的とした「エコバッグによるレジ袋削減活動」は、入所者が継続して制作に取り組み、社会的役割を実感できる機会の創出につながっている。完成したエコバッグは、コンビニエンスストア、金融機関、公民館等に設置・配布し、地域全体で環境意識の向上を図るとともに、当会の公益的活動を周知する広報ツールとしても活用した。また施設および設置協力先の企業・団体の QR コードやホームページアドレスを掲載し、地域

における協働関係の可視化を図った。

11 月には「積善会まつり」を開催し近隣住民を中心に多くの参加を得た。入所者、職員、地域住民が交流する機会を創出することで施設への理解促進と地域のつながりの強化を図った。

津島生活学校（津島学区ボランティア団体）と協働し、毎月京山公民館で実施されているフードドライブ事業において集まった物資を受け取り、近隣の子ども食堂へ提供する中間支援を継続した。子ども食堂に加え、母子家庭支援団体等へも物資を届けることで、支援を必要とする世帯への安定的な支援体制の構築に寄与した。あわせて、関係団体との連携を深め、地域内の支援ネットワーク形成に貢献した。

また、地域住民が主体的に運営する「つしまみんな食堂」と協働し、春・夏・冬休み期間中に子育て家庭を対象とした弁当配布事業を実施した。さらに、年末には門松づくりワークショップを施設内で開催し、地域文化の継承および世代間交流の促進を図った。これらの取り組みにおいて、ボランティア活動の周知、チラシ配布、フードドライブによる物資支援、入所者の社会参加等を通じ、継続的かつ多面的な地域連携を推進している。

2 月からは養護老人ホームの施設機能を活用した「契約入所」を開始。社会的孤立や経済的理由により住まいの確保が難しい高齢者が増えている中で行政による措置入所だけでなく、施設と入居者が直接契約を結ぶことで迅速に安心できる住まいを提供。施設がこれまで培ってきた 24 時間の見守り体制や食事の提供、専門職による自立支援・相談援助などの機能を活かし、従来の措置制度を補完する新たなセーフティネットとしての役割を担っている。今後も、行政や地域包括支援センターなどの関係機関との連携をさらに深め、地域課題の多様化に柔軟に対応しながら、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる地域共生社会の実現に向けて取り組んでいる。

（8）SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み

法人理念である「和」の精神を SDGs の「誰一人取り残さない」という理念に重ね合わせ、事業活動を通じた社会課題の解決に向けて取り組みを実施。

地域共生社会の担い手として、次世代を担う学生への福祉教育や実習受け入れを積極的に行うとともに、職員の専門性向上と多様な働き方を支援することで、質の高い福祉サービスの持続的な提供に努めた。また、環境負荷の低減やパートナーシップによる地域ネットワークの構築など、多角的な視点で持続可能なまちづくりに貢献している。